

# ゲッターロボ <https://majingai.x.fc2.com>

『ゲッターロボ』は、永井豪と石川賢原作のマンガおよび1974年（昭和49年）4月4日から1975年（昭和50年）5月8日までフジテレビ系で毎週木曜日19時00分 - 19時30分に全51話が放送されたロボットアニメ。または、同作に主役として登場する架空のロボット名である。ゲッターロボは本作以後も漫画やTVアニメ、OVAなど多数制作されており、本作のロボットは他の作品にも登場している。

## 【概要】

巨大ロボット作品中、合体・変形ロボット作品の元祖と位置づけられるもの。3人の操縦者によってゲットマシンと呼ばれる3機の飛行機様の乗り物が合体し、空中用、地上・地中用、海中用の3種のロボットに変化するコンセプトは、その後の続編などにも引き継がれている。『マジンガーZ』というロボットヒーロー、『仮面ライダー』という変身ヒーローを大成功させた東映のプロデューサーが、「ロボット」+「変身」という新たなコンセプトのヒーローを生み出そうと永井豪率いるダイナミックプロに企画を依頼したのが誕生の発端とされる。このような経緯のため『週刊少年サンデー』（小学館）に掲載された石川賢による漫画連載を「原作」と呼ぶのは正確ではない(?)。また、小学館の学年別学習雑誌にも石川賢他によるアニメ版の漫画化作品が掲載されている。

## 【ストーリー】

早乙女研究所で開発されていた宇宙開発用のロボット、ゲッターロボ。しかし、太古の昔、人類よりはるか以前に地上を支配していた恐竜人が長き眠りより目覚め、地上を奪回すべくメカザウルスを投入して侵攻を開始した。ゲッターロボのエネルギー源として研究されていた、人類にとっての未知の宇宙線「ゲッター線」は、実は恐竜人にとって天敵であり、恐竜人を地底へと追いやった元凶だった。地上侵攻の手始めとしてゲッター線開発を阻止すべく恐竜帝国の帝王ゴールは早乙女研究所を襲う。テストパイロットと共に実験機を失いピンチに陥る早乙女研究所だったが、浅間学園に通う正義感溢れる3人の高校生、流竜馬、神隼人、巴武蔵の協力によって、本物のゲッターロボが恐竜帝国の魔の手から立ち向かうのであった。

## 【メディア展開】

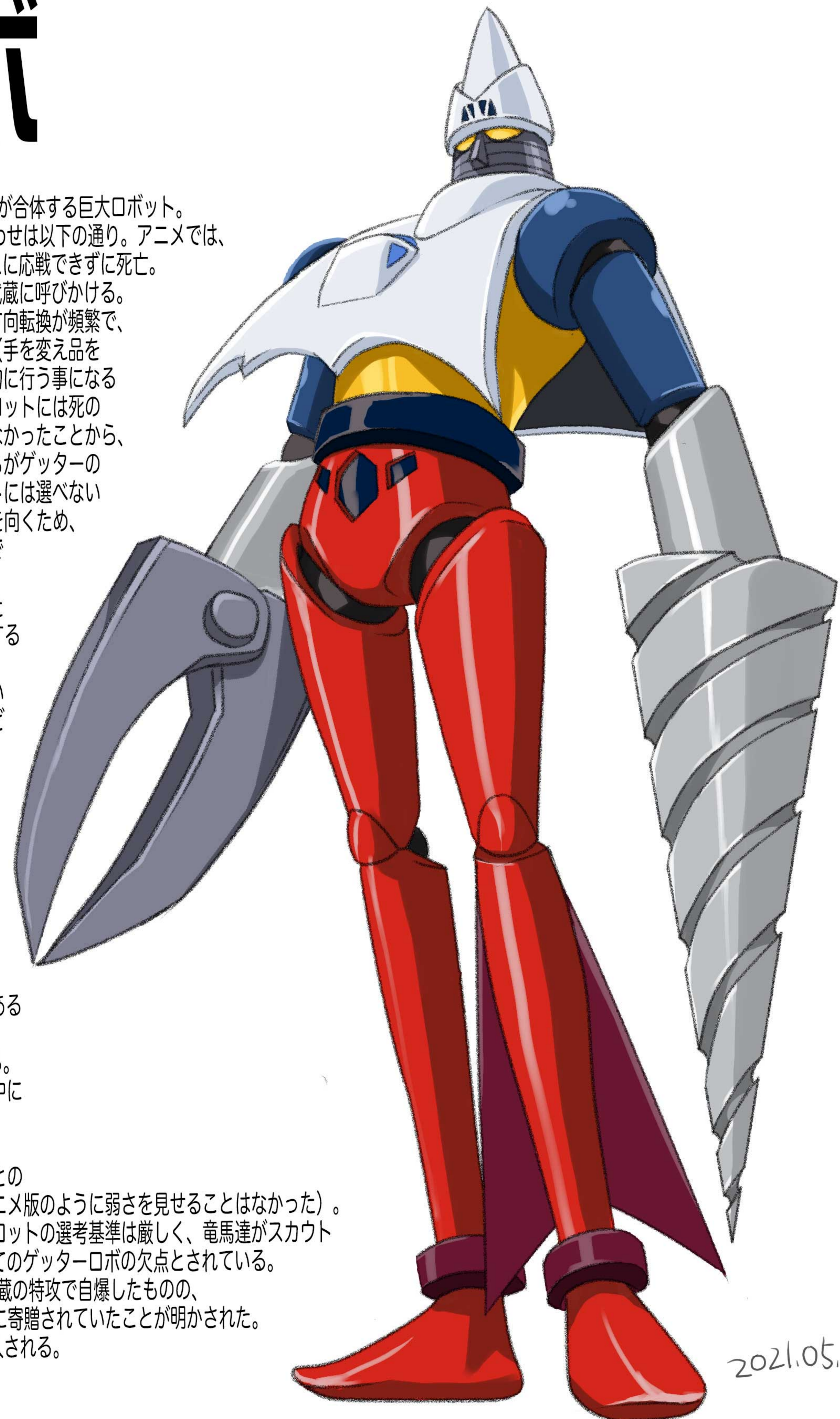
1970年代初頭はメディアミックスの定着期であり、この作品もその一角において強い存在感を示している。本作は1974年4月4日から、作品としてのメイン展開において、TVアニメと週刊少年サンデーでの連載漫画の二本立てとしてスタートした。アニメと漫画はほぼ平行してスタートしているが、ダイナミックプロによる企画であるため、アニメのクレジットでも漫画を原作として位置づけている。前番組は『ドロロンえん魔くん』であるが、『マジンガーZ』の大成功からこの時間帯もロボットアニメで仕掛けるフジテレビの意向が強く出た結果となった。東映動画が提案した最初のアイデアは、「3人が合体して一つのロボットにならないか?」というものだった。これにスポンサーのポピーの杉浦幸昌が「ジャンボマシンダーがひとつでこんなに売れたんだから、ひとつの番組で3体出せばもっと売れる」という意見より「複数のロボットを登場させてほしい」と注文。初期の企画書では「チェンジロボットゲッター3」と仮タイトルがつけられ、3人の中学生、流竜之介、犬神隼人、巴武蔵が主人公で、サイボーグとなって戦うという設定であった。ゲッターへの変形もサイボーグ化された3人が人間ピラミッドを組み、頂点となるのが誰かで3種類のロボットに変身するというもので、変形ロボのイメージは少なく、変身体合という構想であった。流竜之介（リュー）が頂点となると腹部にアストロビームを装備したゲッター3に、犬神隼人（ハヤト）が頂点となるとマントをブーメランに変形させて戦うスピードファイター・ゲッター2に、巴武蔵（ムサシ）が頂点となると胸からアストロング砲を撃つパワータイプのゲッター1に変身する（機体番号の序列は3-2-1となっており、放送されたものとは逆になっている）。3人が操る地底戦車タイプのマシンはゲットマシンと名付けられていた。この時期のゲッターのデザインは3機ともマントを装備した人間型で、ゲッター2を除いて目に瞳が描かれている。その後、サイボーグからレーシングマシンへと合体の主体が変わり、最終的には、合体したときタイヤが付いているのでは絵的にみっともないということで、戦闘機が空中で合体するというアイデアに決まった。石川賢による漫画と、アニメなどでは、主人公の設定や他の登場人物なども一部異なっている。本作品に限ったことではないが、TVアニメでは、対象年齢が下げられているため、キャラクターの設定や言動も漫画とアニメではかなり異なる。放送当時の劇場版アニメでは『グレートマジンガー』などと共演しているが、特別編的な要素が強く、近年の各OVA作品ともどもパラレルワールドとして捉えられている。『ゲッターロボ』は先行するダイナミック企画作品『デビルマン』の対異生物戦争、『マジンガーZ』の対異文明戦争の両方をミックスした「恐竜帝国」との戦いというモチーフ。続編の『ゲッターロボG』は「百鬼帝国」という神話伝説の「鬼」をモチーフとしているが、そこに科学的設定を加え、一種の脳改造のシンボルとして角が生えていることとなっているため、原作・アニメとも異生物のイメージは影を潜めている。漫画版『ゲッターロボG』終盤部においては、さらに「アトランティス帝国」が登場し、「百鬼帝国」と三つ巴の争いとなる。この時に登場した、アトランティス製の巨大ロボット「ウザーラ」は、後のOVAに登場する、「真ゲッタードラゴン（最終形態）」のデザインの基礎になっている。『ゲッターロボ』は企画の初期段階では、プロフェッサー・ランドウが率いるメタルビースト軍団が敵である。「ゲッター線」の設定は登場せず、後年原作者によってゲッター線ではないエネルギーで動いている設定だったことが明言されている。アニメ終了後も続いた原作漫画ではそこを逆手に取り、メタルビースト軍団を乗っ取った恐竜帝国（第一作の敵の再来）に対抗する手段としてゲッター線で動く「本当のゲッターロボ」真ゲッターロボを登場させた。これが後に繋がる「ゲッターロボサーガ」の幕開けとなる。



# 1974年

# ゲッターロボ

【ゲッターロボ】  
初代ゲッターロボ。イーグル号、ジャガー号、ベアー号の3機のゲットマシンが合体する巨大ロボット。3機の組合せでゲッター1、ゲッター2、ゲッター3の3タイプがある。組み合わせは以下の通り。アニメでは、武装のない練習用ゲッターロボに正規パイロットが乗っていて、メカザウルスに応戦できずに死亡。正規パイロットが死亡してしまったため、竜馬が同乗して貰うために隼人、武蔵に呼びかける。漫画版ではその性能や運用特性からくる様々な物理的負荷（急激な加減速や方向転換が頻繁で、並の人間では戦いのたびに病院送りを心配せねばならない程）や心理的負荷（手を変え品を変えて未知の兵器を駆使する敵との戦闘は事前の予測がまるでつかず、日常的に行う事になる合体さえ空中衝突に近い過激な作業である為、なまじ飛行訓練を受けたパイロットには死の恐怖につながるほどのストレスになった。）によって乗りこなせるものがいなかったことから、それに耐えられる常人離れした体力と回復力と機転と剛毅さを併せ持つ竜馬らがゲッターのパイロットに選ばれた。（逆に言えば桁外れに優秀な人間でないとパイロットには選ばないという事でもある。）各ゲットマシンのコクピットの開口部が合体後に上方を向くため、ゲットマシン時は直接視認（有視界）、ロボ形態では間接視認（モニター）で操縦されていたが、その弱点を恐竜帝国に看破され妨害電波（アニメ版）、ロボ形態時のカメラのある頭部への攻撃（学年誌漫画版）を受け危機に陥ったことがある。そのため頭部となるゲットマシンのコクピットのみ頭部へ移動する改修が加えられた。分離の際のかけ声は「オープン・ゲット」。変形する際だけでなく、ゲッターロボの状態での回避動作を行なっている間は間に合わない際の緊急回避、敵に絡め取られて動けない状態になってしまった時の脱出などでも状況を立て直す際に使うことが多い。戦闘終了の確認合図は「オープン・フォーメーション」である。ほとんどすべてのゲッターロボはパイロットが3人に満たなくても操縦可能。その場合、パイロット不在のゲットマシンは自動操縦となる。しかし、その状態ではパイロット不在な個所の制御が大雑把なものとなって状況に合わせた対応もできず、戦闘効率が半分以下になる弱点がある。早乙女博士の話では3機のゲットマシンと3人のパイロットが揃って3x3で（無人制御1機分と比較して）9倍の力を発揮するとのことである。元々は宇宙開発のために開発された作業用ロボットであり、戦闘用ロボットではない。そのため、映画『グレートマジンガー対ゲッターロボ』では純然たる戦闘用ロボットであるグレートマジンガーに比べ、非力さを見せていた。武装が少ないのもそのためで、欠点はゲッターロボGで改善されることになる。アニメ版ではでゲットマシンの状態で三段式ゲッターロケット弾の連結作業中にダイの奇襲を受け大破し、続編『ゲッターロボG』第1話冒頭で戦死した武蔵の葬儀と並行して、ゲッター1の形にした上で爆破処分された。一方漫画版では、一応宇宙開発用途の名目ではあったが、実際には恐竜帝国との戦いを見越した早乙女博士によって戦闘用に開発されていた（そのため、アニメ版のように弱さを見せることはなかった）。戦闘用ロボットのため、パイロットにかかる負荷が凄まじい。そのためパイロットの選考基準は厳しく、竜馬達がスカウトされるまでに349人もの候補者が脱落している（これは漫画版シリーズの全てのゲッターロボの欠点とされている。また、漫画版を原型とするOVAシリーズにも継承されている）。最終回で武蔵の特攻で自爆したものの、『真ゲッターロボ』ではその後に完全に修復され、浅間山のゲッター博物館に寄贈されていたことが明かされた。しかし、恐竜帝国残党によるゲッターロボG強奪事件を機に、再び実戦に投入される。  
出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



【ゲットマシン】  
ロケットマシンという乗り物である。ジェット噴射のみで飛ぶ従来のマシンとは違い反重力システムで浮遊飛行と兼ね合わせている。腹部には垂直着陸ノズルが着いており、垂直で発進、着陸も可能。コマンドマシンも同様である。

【イーグル号】  
ゲッターロボを構成するゲットマシンの1号機。色は赤。運動性の高さが特徴。武装はロケット弾と小型ビーム砲。後に他のゲットマシンと共に対戦闘機用の機銃が追加装備された。パイロットは竜馬。

【ジャガー号】  
ゲッターロボを構成するゲットマシンの2号機。色は水色だが、玩具等では白色とされる場合が多い。空力性に優れた機体。加速力はゲットマシンでNO1を誇る。垂直着陸ノズルはゲッタービームの発射口となる。初期武装は小型ミサイル。パイロットは隼人。

【ベアー号】  
ゲッターロボを構成するゲットマシンの3号機。色は黄色。安定性に優れた機体。初期武装は大型ミサイル。パイロットは武蔵。  
・ゲットマシンは全て最高速度がマッハ0.9に統一されている。だが加速度や運動性が各機違っている。ゲットマシンの連携技としてはゲッタースカイネットがある。

【コマンドマシン】  
ゲットマシンと同じデザインラインを持つ早乙女ミチルの搭乗機。偵察・援護用の機体である。漫画連載時の掲載誌にはコマンドマシンとゲットマシンが合体できるかどうかの質問が寄せられていた。漫画やOVAには未登場。武装はコマンドミサイル。コマンドカーと呼ばれる回もある。アニメ版や一部の漫画版では何度か破壊されており、作り直されている。アニメ版では最終回、武蔵が搭乗してダイの心臓部に特攻し大破した。

2021.05.29

# 1974年

# ゲッターロボ

## 1974年



【ゲッター-1】  
 空陸戦を得意とするゲッターロボの第1の形態。イーグル号：頭部、ジャガー号：腕部と腹部、ベアー号：脚部で合体後完成するゲッターロボ基本形。六角形の組み合わせが顔になるという斬新なデザインを持つ（原作アニメ版と漫画版では、肩の色や脚部の赤いライン、顔の亀甲模様の数が異なり、簡略化されている）。デザインモチーフは漫画版が「亀の甲羅」、アニメ版が「サッカーボール」である。最強の武器である「3万度の熱線」ゲッタービームを放てるのはこの形態のみとされている。他にもゲッタートマホークやゲッターレーザー（未使用）などの武装がある。またトマホークブーメランによって5km離れた敵も攻撃することが出来る。格闘の技としてゲッターキック、ダブルキックなどもある。ミサイルマシンガンやゲッターマシンガンなどの射撃武器を携行する作品もある。なお、アニメ版ではゲッタービームは頻りに無効化されていた（メカザウルスに装備されていたゲッター線防御壁のため）。そのため、アニメ版ではビームで敵にトドメを刺す際にはゲッタービーム・フルパワーを使用している。マント状の翼ゲッターウイング（別称、反重力マント）を背部から出し、飛行できる。最高飛行速度はマッハ2であるが、反重力回路により空中でも地上並みの機動力で戦える。元々は宇宙開発用のロボットなので成層圏突破や大気圏突入も可能で宇宙空間でも活動可能である。漫画版とOVA版のゲッターウイングは布のようにたなびく。全高38.0m、重量250t。

【ゲッター-2】  
 陸での高速移動および地中活動が可能なゲッターロボの第2の形態。ジャガー号：頭部と腕部、ベアー号：腹部、イーグル号：脚部で合体後完成するゲッターロボ（少年サンデー版では、腕部をベアー号が構成する描写もある）。左手がドリルアーム、右手がパンチ型で最強の握力を誇るゲッターアームは一撃で相手の肉体の一部をねじきる、宇宙開発用であることが偲ばれる形態。地上・地中戦向けに加速性能に優れており、ゲッタービジョンという高速移動による分身の術が使える（移動速度は最大マッハ3）。また、ゲッタービジョンは円形状に走行し敵の虚を突いて攻撃することもできる（27話のパボ戦で使用）。最高走行速度に達するときはゲッターマッハと呼称される。ドリルで地中に潜って掘り進むことができる上にドリルストーム（4話ではゲッターハリケーン）という竜巻をおこすことができる。ドリルは発射して遠距離攻撃武器としても使用可能である（TV版ではドリルパンチ、OVAではドリルミサイルと名称が異なる。漫画版では「ドリルロック」または「ジェットドリル」と呼ぶ）。足の補助ロケットを使って短時間なら飛行も可能である。漫画版では、地中で目から、ゲッタービームを発射している描写がある上、水中でも使用されている。敵の本拠地「マシンランド」を追撃するためにゲッター線銃が追加装備される。同時に耐熱被膜装置も装備されマグマ層も短時間なら行動出来るようになった。全高38.0m、重量250t。

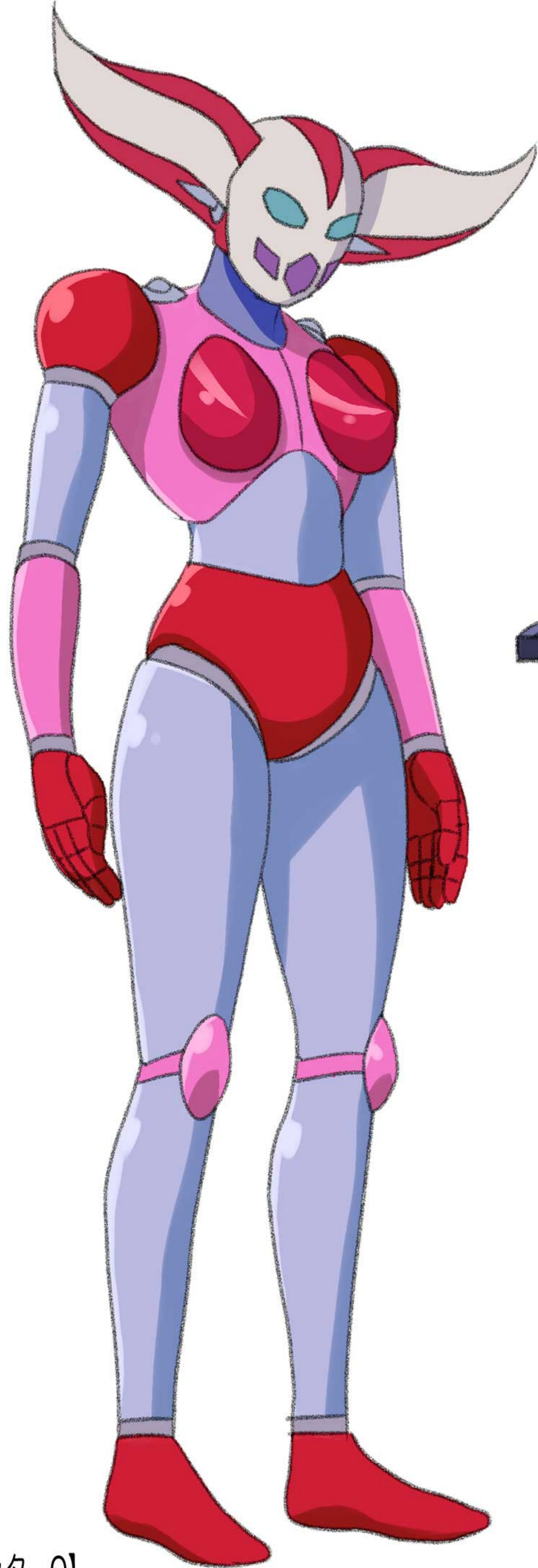
【ゲッター-3】  
 重量戦および水中活動に適したゲッターロボの第3の形態。ベアー号：頭部と腕部、イーグル号：腹部、ジャガー号：下半身で合体後完成するゲッターロボ。主に不整地や水中など歩行の難しい場所用に開発されたキャタピラを持つ形態。他の2形態と比べて機動力に難があるが、キャタピラの走破性は良く時速200kmで走ることが出来る。水圧にも強いが限界がある。形態では最強の90万馬力を誇り両手を振り回して怪力を活かしたゲッタースマッシュなどもある。腕は多関節のジャバラ状で後のアニメ化作品では伸縮自在という演出がされていた。マニピュレーターの出力の高さを活かした格闘戦が得意で、巴武蔵の柔道技「大雪山おろし」を再現できる。本作での「大雪山おろし」は、敵を直接掴んで持ち上げた後、機体全体を回転させて投げ飛ばしていたが、後年のOVA作品では伸縮する腕に敵をらせん状に絡めとり、腕を引き戻す勢いで投げている。ゲッターミサイルを放つことができる唯一の形態。また、空を飛ばない唯一の形態でもあるが後に改良され短時間なら飛行できるようになった。OVAでは、ジャガー号機首部分に機関砲が追加装備されている。外伝作品の『月面十年戦争』ではリョウ、ハヤト、ムサシが一機ずつ操縦する3機のゲッターロボがゲッター-3を中心に合体し、ゲッター-3のジャガー号機首からゲッタービームを放つ、という描写がある。全高20.0m、重量250t。

・同じ3機が合体変形するのだが、3形態ごとに重量が異なっている。東映ビデオから発売された『ゲッターロボメモリアル』では3タイプとも「220t」に統一された。ゲッター-1では、ジャガー号の後部にベアー号が連結し、その後イーグル号の後部に連結する形になるが、この際イーグル号のみ、他の2機に対して逆さになる向きになる。イーグル号状態の時のリョウの頭上の向きがゲッター-1の正面の向きになる。ただし、アニメ版のオープニングでは、ジャガー号のみが他の2機に対して逆さになっている。漫画版では3機とも同じ向きに描かれることもあった。ゲッター-2では、ベアー号の後部にイーグル号が連結し、その後ジャガー号の後部に連結する形になるが、ゲッター-1と異なり、3機とも同じ向きになっている。ゲッターマシン状態の時のパイロットの頭上の向きがゲッター-2の正面の向きになる。ゲッター-3では、ジャガー号の上面にイーグル号が垂直に突っ込み、その後部にベアー号が連結する形になるため、ジャガー号のハヤトから見れば正面がそのままゲッター-3の正面となり、ムサシとリョウがゲッターマシン状態の時の頭上の方向が、そのままゲッター-3の正面になる。なお、最終回でゲッターロケット弾を撃ち込む作戦を決行（失敗に終わった）ときには、ロケット弾を連結させるために、イーグル号→ジャガー号→ベアー号の3機ともパイロットの向きが同じ向きになっていたが、ゲッターマシン自体は連結していなかった。

# ゲッターロボ

## 【テキサスマック】

アメリカ製のスーパーロボット。キング博士の開発した戦闘用ロボットであり、ゲッターロボよりも高い戦闘力を誇る機体。名前の通りテキサスのカウボーイのようなスタイルであり、頭部のハットマシンは分離して盾になったり透明コートを生じさせ溶解液を防いだりする。手持ちの銃が変形し距離に応じて使い分ける。パイロットはジャック（本体）とメリー（ハットマシン）。



## 【ゲッターQ】

ゲッタークインと読む。分離変形しないゲッターロボのパートナーロボ。早乙女博士が設計したが、設計図を恐竜帝国に奪われゲッターの敵となった。パイロットはゴーラ。

『スーパーロボット大戦』シリーズでは、威力は弱いゲッター1とほぼ同様の武装が装備されている。登場は22話のみで、本作に関しては1エピソードのみ話であった。

・なお、後年『デビルマンVSゲッターロボ』では上半身と下半身に分離合体する二機合体変形ロボットとして"ゲッタークイン"が登場。こちらは早乙女博士が作った純粋な地上人のゲッターで、デザインも違う。コクピットが手狭で成年男性では身動きが取れない位であるために女性・子供専用のサポートゲッターである。パイロットは1号機を早乙女ミチル、2号機を牧村美樹が担当する。ただし合体は1号機からの自動連動操縦で行われている。

## 【プロトタイプゲッターロボ（練習機）】

ゲッター練習機とも言う。アニメ第1話登場のマシンで白基調のモノトーンカラーの機体。早乙女達人と研究所員が乗り込んだ。変形テストには成功したもののメカザウルス・サキの襲撃で破壊されてしまう。

宇宙開発用で武装されていないとされる。ゲッターマシン時の名前は不明。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

2021.05.31

# 1974年

【流竜馬（ながれりょうま）】声 - 神谷明

17歳。愛称はリョウ。浅間学園に通う高校生。サッカー部のキャプテン。サッカー部のコーチであった早乙女達人が恐竜帝国との戦いで戦死したため、その敵討ちを誓い、イーグル号とゲッター1のパイロットの座を達人から引き継ぐ。性格は真面目で責任感の強い熱い優等生タイプ。ゲッターチームのリーダーを務める。九州の剣術道場の息子で、剣術の心得もある。学校の寮では隼人、武蔵とはルームメート。当初は軽症ながら高所恐怖症であり空戦メインのゲッター1の搭乗者として不適正とされた時もあったが本人の努力で克服した（3話）。妹を交通事故で亡くしている。父母は健在だが60代でかなりの遅子。唯一正規のパイロットスーツを着用している。愛車は黄色いサイドカーで隣には主に武蔵を乗せる。出身地は九州であるが中学時代から親元を離れている描写もあった。

【神隼人（じん はやと）】声 - 山田俊司

17歳。ジャガー号とゲッター2のパイロット。浅間学園の生徒。スポーツ万能で、サッカー部主将の竜馬、柔道部主将の武蔵からも入部を勧誘されていた。ニヒルで孤高の一匹狼的性格。気障な皮肉屋であり、決して素直に感情を示さない。そのため他人から誤解を受けやすい。早乙女ミチルに亡き母の面影を見つけ、ひそかに慕っている。ゲッターチームに参加するきっかけも、ミチルが危機に陥っていたためである。趣味はハーモニカを吹くことで、母の形見の十字架を肌身離さず持っている。当初はかなりの自信家で実際に竜馬の能力を上回る描写も度々視られた。33話でリョウとぶつかり合ったが次第に認め合う。やがて博愛主義の竜馬に心を動かされサブリーダーとしてサポートしていくことになる。続編のゲッターロボGで百鬼帝国との決戦の際、ついにミチルに告白する。家族は父と姉。劇中、姉は何度も敵の手に落ち、父親との確執も幾度か描かれた。戦闘服は自前のライダースーツとヘルメット。愛車はチョッパーハンドルに背もたれが付いたバイク。趣味は登山であり、山のことにになると少々うるさい。

【巴武蔵（ともえ むさし）】声 - 西尾徳

17歳。ゲッター3およびベアー号のパイロット。友人である流竜馬と同じく浅間学園に通い、柔道部の主将を務める。第1話では虫類が苦手という弱点もあったが、第2話で隼人の治療と努力によって克服。能力、性格は共に対照的な隼人からは前半ではかなり批判されていたが、後に信頼も得るようになる。ミチルへの愛情は誰よりも強い。得意の柔道技である「大雪山おろし」を使うなど、ゲッター3のパイロットとして成長したが、最終回での自分のミスでゲッターマシンを喪失させてしまった責任から単身コマンドマシンに乗り、生きて帰ることを望みながらも無敵戦艦ダイの口内に突入して相打ちになるという壮絶な最期を遂げる。戦闘服は工事現場用のヘルメットと剣道の赤胴を着用し、ゴーグルは水泳用のものを使用。なお、背中の上日本刀は本物であり、敵キャプテンとの決闘の時に竜馬に貸し与えたこともあった。家族は母のみ登場した。当初はコメディリリーフ（お笑い担当）であったが、大枯文次の登場で、その役割は次第に文次へとバトンタッチされる。自転車にも乗れないため、オートバイは所持せず竜馬のサイドカーに便乗することが多い。出身は北海道。なお「大雪山おろし」の由来は大雪山にこもって修行し編み出した技というところからである（漫画版も共通）。劇場版である『グレートマジンガー対ゲッターロボG 空中大激突』ではオープンゲットで離脱中に空魔獣クランゲンと相打ちの形で戦死している。

【早乙女ミチル（さおとめ ミチル）】声 - 吉田理保子 / 吉田美保（スーパーロボット大戦シリーズ）

17歳。ゲッターチームの1人で、早乙女博士の娘。作中ではコマンドマシンを操縦してゲッターロボの支援にまわっている。浅間学園のマドンナ的存在で、巴武蔵や大枯紋次に好かれていたが、最終的には隼人という関係になっていた。『ゲッターロボG』の終盤では、行方不明になった隼人の代わりにゲッターライガーに搭乗した。  
出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

【スタッフ】

- ・ 企画：別所孝治、勝田稔男
- ・ 製作担当：大野清
- ・ 原作：永井豪、石川賢
- ・ 連載：テレビランド、週刊少年サンデー、冒険王
- ・ 音楽：菊池俊輔
- ・ 原画：金田伊功他
- ・ キャラクター設計：小松原一男
- ・ 制作：フジテレビ、東映

<https://majingai.x.fc2.com>

# ゲッターロボ 1974年

2021.05.30



【Getter線】  
Getterロボの動力多数の機体が「Getter線」と呼ばれる放射線である。宇宙から無限に降り注ぎ、恐竜を絶滅させた（恐竜はGetter線に弱いことになっている）とされるほか、哺乳類の進化を促したとされている。さらにはOVA『真（チェンジ!!）Getterロボ 世界最後の日』に登場した宇宙生物インバーダーのエネルギー源でもあるが、インバーダーはGetter線を過剰に吸収すると体が耐えきれずに崩壊するため、Getterロボによる攻撃の効果は認められる。Getterロボの駆動には「Getter炉心」と呼ばれる反応システムを用いる。この炉心は原子炉同様、臨界を越えるとメルトダウンを起こし、高熱を発生して溶け出す。また、どんな影響があるのかは不明であるが、「Getter線汚染」という、一種の放射能汚染を引き起こす場合もあった。Getterエネルギーは宇宙からGetter線が無くなる限り無尽蔵であり、宇宙開発には最適のエネルギー源であったが、前述の理由により対恐竜帝国用の切り札的な兵器として戦闘用に転用される。対恐竜帝国に絶大な効果を発揮した「Getterビーム」は、Getter線の戦闘への転用の典型例である。人工的な核融合を引き起こすことも可能であり、OVAでは15個の衛星を吸い込み、質量を増やした木星に暴走させたGetter炉心を撃ち込み、核融合を起こす「Getter線の太陽」が生み出された。Getterロボが変形することができるのもGetter線による効果であり、Getter線によって金属が伸び縮みしたり、金属チップが増殖するという現象を引き起こす。それにより形状構造的に考えれば無理のある変形合体も可能となっている。ちなみに、各種設定資料等によるとGetterロボの装甲は『Getter合金』と呼ばれる一種の形状記憶合金で出来ている。漫画版では「特殊金属」とも呼ばれたこの合金が用いられているのは外装だけで、OVA版では不自然に曲がったり伸びたりしない骨格があり、合体パターンによって外装の金属チップが整列して入れ替わるという演出が取られている。Getter線には未解明の部分も残されている。Getter搭乗者が見る「夢」や機械ですらも進化させることができる能力（『Getterロボ號』漫画版参照）については、作中でも謎のままである。Getter線研究の第一人者であった早乙女博士ですら、Getter線の全貌を解き明かすまでには至っていない。漫画版『Getterロボ號』においては、主人公の一字號がGetterの意思と接触した際の対話で、物質、時空間、自然物、進化、生命全てを司る存在であることをうかがわせており、同時にGetter線が生命を宇宙に広げていく機構としての側面を果たしていることも明らかにし、作中では生命を生み出す根源の力Getter線を種子に喩え、「種子の散布=宇宙における生命の拡大」として説明した。なお、死んだ生命（魂）も再びGetterの元に帰っており、帝王ゴールや大帝ブライは死後に早乙女博士や竜馬の前に、Getterの使者として姿を現した。拡大機構の具体的な例として、真Getterロボが北極圏で繰り広げた最後の戦いの際、核ミサイルを手始めに、恐竜帝国の兵器「デビラ・ムウ」と乗っていたハチュウ人類全てを吸収し、直後に超光速で火星へと跳躍、一瞬でのテラフォーミングを敢行しており、その数刻後には火星で微生物の誕生が確認できる状態となっていた。なお、この戦いで生存していた橋翔らは吸収せずに地球に残していくという取捨選択を行っている。石川賢によるシリーズ最終作、漫画『Getterロボアーク』では、2500年以上先の未来で宇宙へと進出した地球人類は、既に忘れ去られた星系であった太陽系から現れたGetterエンペラーとの接触を果たしており、エンペラーの庇護下に置かれていた。人類は「Getterが人類のみの味方であり、選ばれた種である」という強固な選民思想を打ち立て、Getterエンペラーと共に宇宙制覇に乗り出ている。この際にGetterが「大いなる意思」によってもたらされた生物の本能の意義を示しているほか、「人間の存在理由」「進化の理由」「人間同士が殺しあう理由」、更に「宇宙の存在理由」に関わっていることが判明していた。なお、これらと同様の表現は、同じ用語を用いて石川賢の別作品『真説 魔獣戦線』にも登場しており、石川の持っていたテーマ性の一端が伺える。

- 【特記】
- ・「永井豪らが運転した自動車の三重衝突事故が発想のきっかけとなった」と石川賢はエッセイマンガ（『Getterサーガ』所載）で冗談めかして述べているが、同時に「ウソです」とも書いているため、真偽は定かではない。なお、この時期に永井が自動車の運転を始めたことは、『マジンガーZ』の乗り込み型巨大ロボットという発想にも関わっているという。
  - ・Getterロボのデザインは原作者2名で考案中に永井豪の提案で、「多少形態の変化に無理があってもかまわない」という発想の元で作られた。このことは後年、『獣神ライガー』CDドラマにおいてネタにされている。主にGetter-1は石川賢、Getter-2、3は永井豪色が強い。
  - ・「ロボットのおもちゃをより多く売るために3体作られた」という、企業側による企画上の思惑があったともいわれている。しかしながら、初代Getterロボ、GetterロボG共に変形プロセスが玩具では上手く再現できるものはなかった。現在でも再現しようという試みは存在し、その試みを具体化した玩具もマニア向けが発売されている。後年、完全変形合体（一部差し替え）を目的に制作された玩具をもとにデザイン・制作されたのがGetterロボ號である。
  - ・Getterはもともとサッカーがモチーフであり、Getterの名前はポイントGetterから、倒すべき敵はゴール、主人公の一人竜馬は浅間高校のサッカー部キャプテン、となったという。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

# Getterロボ



# 1914年

# ゲッターロボ

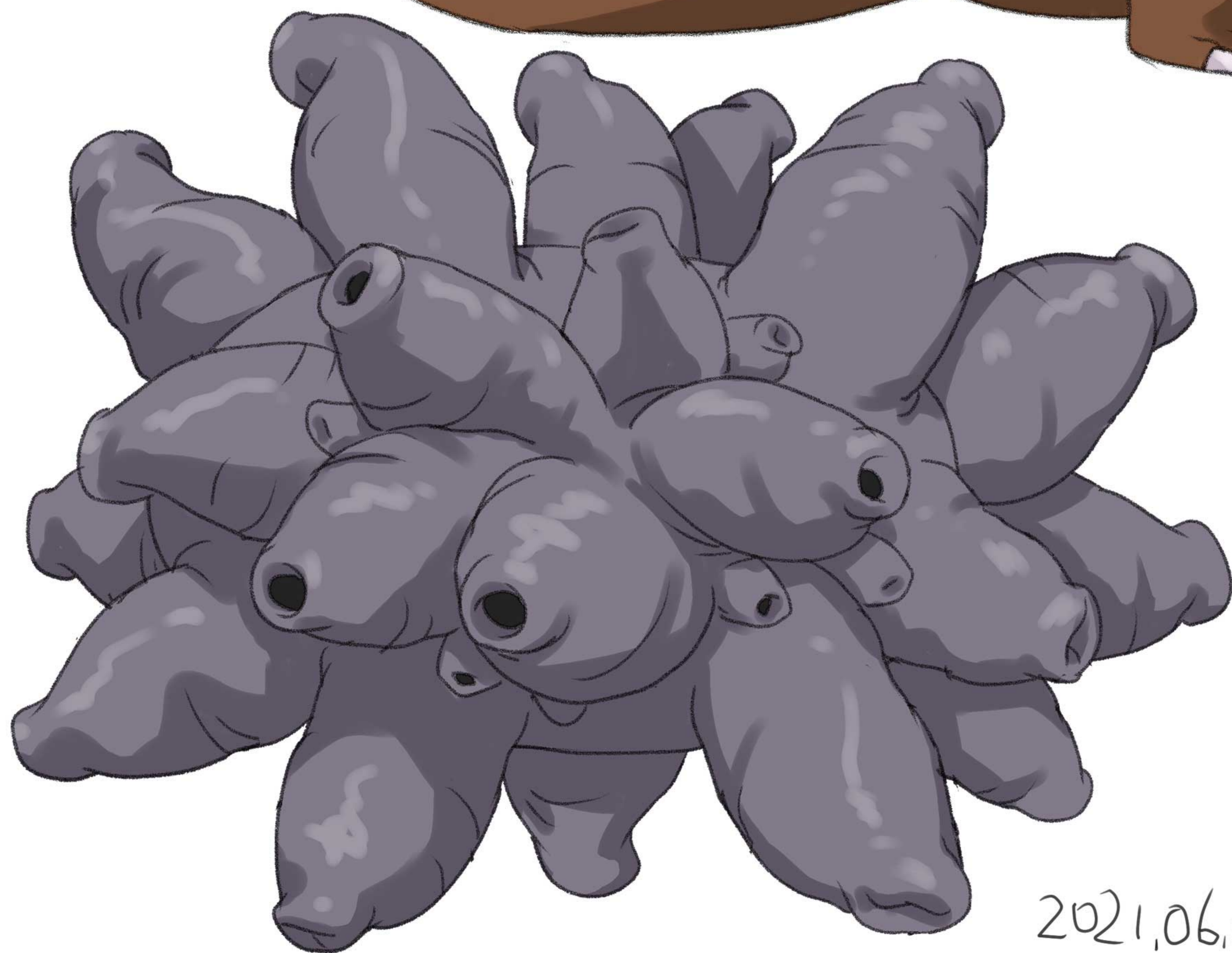
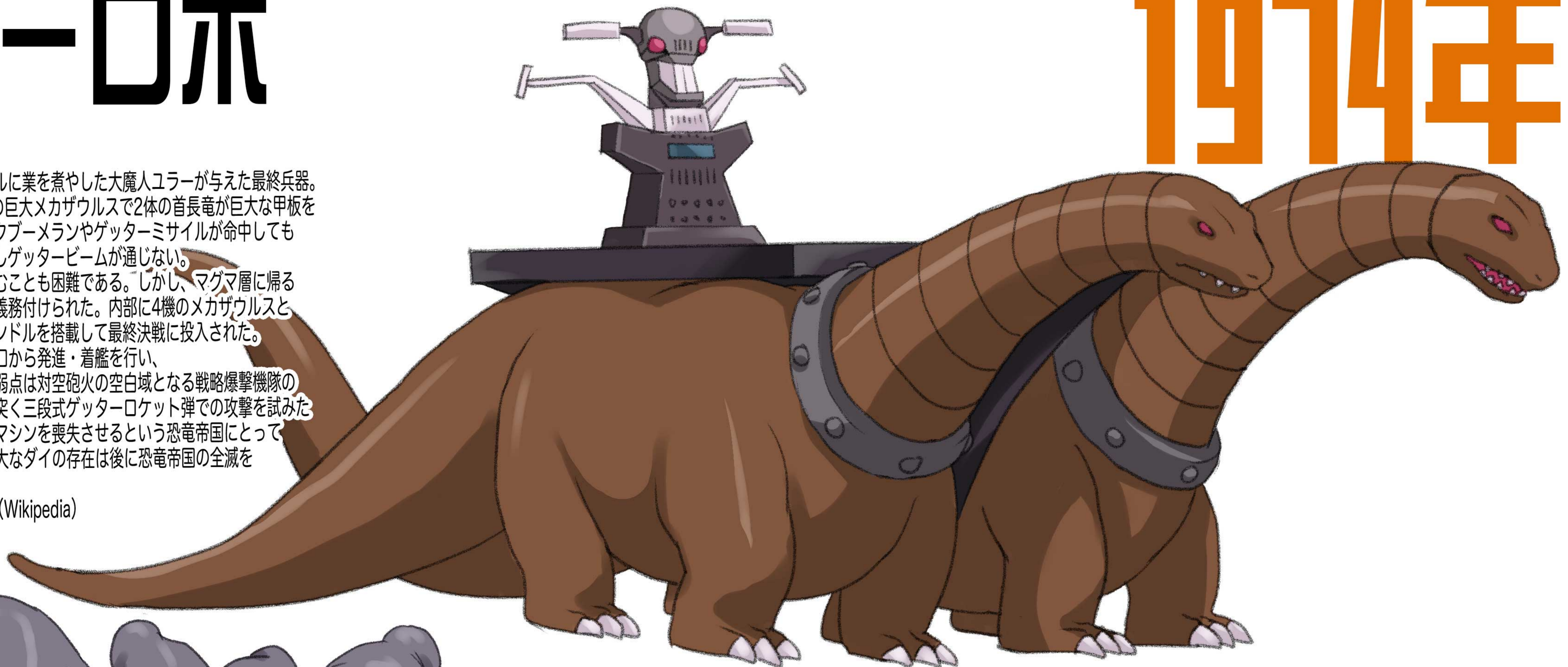
# 1974年

## 【無敵戦艦ダイ】

一向にゲッターロボを倒せない帝王ゴールに業を煮やした大魔人ユラーが与えた最終兵器。全長400mというゲッター1の10倍以上の巨大メカザウルスで2体の首長竜が巨大な甲板を背負っている姿。装甲が強固でトマホークブーメランやゲッターミサイルが命中してもダメージがない。またバリア装置も装備しゲッタービームが通じない。

濃密な対空砲火のために接近戦に持ち込むことも困難である。しかし、マグマ層に帰る装備はなく、ゴールもユラーから必勝を義務付けられた。内部に4機のメカザウルスと200機の戦略爆撃機と戦闘機スーパーコンドルを搭載して最終決戦に投入された。ダイに甲板はあるが、爆撃機は首長竜の口から発進・着艦を行い、体内に格納されている。唯一とも言える弱点は対空砲火の空白域となる戦略爆撃機隊の発進・帰還のための進入ルート。これを突く三段式ゲッターロケット弾での攻撃を試みたゲッターチームを振り返り討ちにしてゲッターマシンを喪失させるという恐竜帝国にとって最大の戦果を上げたが、この進入路と巨大なダイの存在は後に恐竜帝国の全滅を引き起こす原因となる。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』



## 【マシーンランド】

恐竜帝国の本拠地。名称は第47話で判明する。地中に逃れた八虫人類が未開の地・マグマ層での生活や地上征服のため造りあげた全長5kmに及ぶ巨大な移動基地。マグマでもびくともしない丈夫な外壁を有する。マグマ層の中を自由に移動することができ、これによりゲッターチームの探索の目を盗み、本拠地を一切悟らせず、長期戦を展開した。全く同一規格のものが最低3つ存在し、1つはゲッターチームを内部に閉じ込め、彼らの棺桶代わりとして時限爆弾を仕掛けるも脱出されてしまい自滅。もう1つは再度侵入したゲッターチームによって操縦室を占拠され、強引に地上へと引きずり出された事で、大気中に漂うゲッター線を直接浴びてしまい装甲が劣化。そこをゲッター1によるゲッタービームの連続攻撃で狙われ、巨大なキノコ雲を残して爆散した。以降、恐竜帝国の首脳陣は最後のマシーンランドに臣民を残し、地上侵攻活動の拠点を無敵戦艦ダイへと移す事になる。

結局、帝王ゴールたち首脳は全滅したが、最後のマシーンランド自体は住民を抱えてマグマ層に残っている。小説『スーパーロボット大戦』の描写を見る限り、ゴール達と刺し違えた武蔵の遺体は最後のマシーンランドに回収されており、さらに後にこのマシーンランドに闇の帝王が訪れて武蔵の遺体を手に入れている。原作漫画版では、ゲッター線によって大打撃を受けた八虫人類が光線の届かないマグマ層での生活のため造りあげた、巨大な移動基地とされている。

こちらでは「マシンランドウ」と呼ばれることも。TV版と違って一基限定だがブロック構造になっており、ゲッターロボが乗り込んできた部位を切り離して事無きを得たことがあった。日本を総攻撃すべくマグマ層から海底に浮上するが、百鬼帝国に居場所を感知され、マグマ層に逃れる。余談だが敷島博士と早乙女博士の言動を見ると、核兵器なら有効打を与えられる模様。続編『ゲッターロボ アーク』では、複数のブロックに分離して、海底に恐竜帝国の勢力圏を築いている。児童誌に連載された漫画版では、作者によっては「巴武蔵がベアー号を体当たりさせて、マシーンランドを滅ぼす」という展開が見られる。

出典: スーパーロボット大戦Wiki

2021.06.01

<https://majingai.x.fc2.com>



### 【恐竜帝国】

#### 概要

恐竜を始めとする爬虫類が進化した知的生命体「ハチュウ人類」の国家。太古にて、苦手とするゲッター線が大量に降り注いだ事で、地底に追いやられる。なおハチュウ人類はゲッター線には弱い、放射線の類には耐性を持っている模様。マグマ層に潜行する巨大移動要塞マシーンランドを本土としており、再び地上に生活圏を築く為、人類に戦争を仕掛ける。マグマ層で暮らしている為、環境はかなり厳しく現段階でも耐えれず死亡する爬虫類も多いが、科学の発達は凄まじく人類より遥かに進んでいる。恐竜帝国の最大のエネルギーはマグマであり、このエネルギーを利用して発達しており、このマグマを利用すれば地球の生態系をジュラ紀にする事も可能である。

#### TV版

白亜紀にて、ゲッター線により絶滅寸前となった爬虫類が地底に逃れ、ハチュウ人類に進化して築き上げた帝国。大魔人ユラーから与えられたマシーンランドを本拠地としていた。そこから、キャプテン率いる部隊を度々派遣し、地上を攻撃してきた。終盤、マシーンランドをゲッターチームに発見・破壊される。このときはユラーが新しいマシーンランドを与えるが、同じ事態が二度も続き、業を煮やしたユラーの通告で、無敵戦艦ダイを中心とした総攻撃を行う。結局は、巴武蔵の犠牲によって大魔人ユラー、帝王ゴール、ガレリイ長官が死亡。その前の戦いでバット将軍も戦死していたため、恐竜帝国の首脳陣は全滅する。しかし、マグマ層には新しいマシーンランドと、そこに居住するハチュウ人類が残されているため、「恐竜帝国は滅びた」と言うには語弊がある。事実、団龍彦氏の執筆した小説作品『スーパーロボット大戦』では僅かながら存続していた事が、数千年後の未来世界において闇の帝王の口から語られている。

出典:スーパーロボット大戦Wiki

【大魔人ユラー/ユラー大帝 (だいまじんユラー / ユラーたいてい)】声 - 矢田耕司

アニメ版にのみ登場する帝王ゴールの上に立つ恐竜帝国の影の支配者。後半からゴールの地上制覇の進行の遅さに業を煮やして登場した。独自の部下やメカザウルスがあり、「無敵戦艦ダイ」もその1つである。予備のマシーンランドを持っている。10メートル以上の巨体を誇りゴール以外にはその存在を知る者はなく、謁見を許されるのもゴールだけであったが、終盤に恐竜帝国の真の長として姿を現す。ゴールに作戦を授けるもバットやガレリイの足の引っ張り合いなども災いして、ことごとく失敗に終わる。最終話で、ゴールと同じく暴走した「無敵戦艦ダイ」に踏み潰される最期を遂げた。

【帝王ゴール (ていおうゴール)】声 - 神弘無 / 内海賢二 (スーパーロボット大戦シリーズ)

太古の昔、地上を支配した恐竜帝国の現在の帝王。マグマ層に暮らす恐竜人を再び地上に戻らせるために、地上人類に対し戦争を仕掛けようとするが、恐竜人やメカザウルスの弱点であるゲッター線で動作するゲッターロボの打倒が、ゴール自身にとっても至上課題となってゆく。任務に失敗した者や裏切り者はマグマに突き落として処刑する冷酷な性格であるが、娘である王女ゴウラに対して父親らしい愛情を向ける一面もある。また、原作漫画版の粗暴な性格とは違い、綿密な作戦を立てて指令を発することが多い。しかし、物語中盤からはより上位の存在である大魔神ユラーが登場したことで、さながら中間管理職の悲哀の如き様相を呈する。最終話にて「無敵戦艦ダイ」を擁してゲッターチームを撃退し、ついに地上に拠点の築き上げるも、武蔵がコマンドマシンで「ダイ」に突入したことにより、制御不能に陥った「ダイ」の暴走で崩壊した拠点のシャンデリアの下敷きになり死亡した。

【バット将軍 (バットしょうぐん)】声 - 緒方賢一

14話からガレリイ長官と共に登場した恐竜帝国の将軍。キャプテンを統率し、自らもメカザウルスに乗る勇猛な武人。第50話でメカザウルス・ゴダに搭乗、海溝近くでゲッター3を捕縛したがゲッターミサイルによりゴダの脱出装置が故障。自らを道連れにゲッター3を海溝深くに沈めようとするも、再度ゲッターミサイルを受け敗れてゴダとともに海溝に散った。実は心臓が弱く、第18話で甥のザンキに命を狙われた際、右胸に予備の心臓を移植していたことが判明する。何れは帝王の座に就こうという秘かな野心を抱いていた。

【ガレリイ長官 (ガレリイちょうかん)】声 - 山田俊司

恐竜帝国の科学技術長官。様々なメカザウルスや新兵器を開発した。バット将軍とは作戦失敗の責任の擦り合いでしばしば対立する。最終話では、勝利の宴の最中に武蔵が搭乗したコマンドマシンの襲来を受け、酒に酔った状態で迎撃の指示を出したのが最期の描写。結果的にはその安直な指令が、「無敵戦艦ダイ」の暴走を招き、恐竜帝国壊滅の直接の原因となった。

出典:フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

# 1974年ゲッターロボ



【早乙女 ミユキ / ゴーラ王女 (さおとめ ミユキ / ゴーラおうじょ)】声 - つかせのりこ / 天野由梨 (スーパーロボット大戦シリーズ)  
第22話に登場した早乙女博士の養女で、早乙女ミチルの義理の姉。5年前に突然失踪していたが、その正体は恐竜帝国の帝王ゴールの娘・王女ゴーラで、恐竜帝国のスパイとして人間の姿に変えられた上で早乙女家に送り込まれ、ゲッターQの設計図ができあがった所でそれを盗み出して帝国に戻っていた。しかし、人間 (特に養父である早乙女博士) への情が移ったゆえにゲッターロボと戦うことを拒み、ゲッターQを自ら爆破しようとしたが恐竜王女としての運命に逆らうことはできなかった。恐竜帝国の成人の日である皆既日食の日が来ると本来の爬虫人類の姿に戻るため、「ゲッターと戦う前に早乙女家の人々と最後のお別れがしたい」と言って1日だけ研究所を訪れるが、そこで「なぜ同じ地球に生きる者同士で争わねばならないのか」という疑問と苦悩を深めていく。そして皆既日食で元の姿に戻った後、愛する実父と養父への思いを清算するべく命を捨てる覚悟を決めてゲッターQに乗って現れ、「ミユキはたった今自分が殺した」と言って怒りに燃えるゲッターチームの猛攻に身をさらす (もう一人の自分であるミユキのことを自ら否定した訳だからあながち間違いではないが)。最後は自らの援護に来たメカザウルス・ギンの攻撃からゲッター1をかばい、そこで自分がミユキその人であることを明かした上で実父と養父それぞれに「お父様を裏切った私を許して」と謝罪と別れの言葉を残し、ギンもろとも谷底へ身を投げて壮絶な自爆を遂げた。  
出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

# ゲッターロボ 1974年

【女竜戦士ユンケ (じょりゅうせんしユンケ)】声 - 菊池紘子  
第34話に登場した大魔神ユラーの秘蔵っ子で帝王ゴールをも脅かす女竜戦士。自らも巨大化しメカザウルス・ウビに跨りゲッターロボに挑む。故人である竜馬の妹・ジュンの存在を利用し、彼女に生き写しの少女・片桐ジュンとして竜馬の前に現れ、心を許してきた彼に音楽による催眠暗示を施し、戦闘中にゲッターナバロン砲の砲身をゲッター1に切断させた。しかし竜馬の様子のおかしさを疑われ、隼人と武蔵に正体を見破られる。最後はゲッター1を火山の火口に叩き落とすも、そこで自分のことを実の妹のように可愛がってくれた竜馬に対する思慕の念が芽生えてゲッター1を助けようとするが、それを裏切り行為とみなされ粛清に現れたメカザウルス・アローと相打ちになりマグマの露と消えていった。

2021.06.02

<https://majingai.x.fc2.com>

サブタイトル

- 1話 無敵! ゲッターロボ発進
- 2話 決戦! 三大メカザウルス
- 3話 恐竜帝国 レインボー作戦
- 4話 燃ゆる血潮の南十字星
- 5話 闇をつらぬけ ゲッターチーム
- 6話 恐竜! 東京ジャック作戦
- 7話 悪を許すな 突撃ラッパ
- 8話 危機-髪ゲッター-2
- 9話 栄光のキャプテンラドラ
- 10話 急降下! ゲッター3は行く
- 11話 激突! ドリル対ドリル
- 12話 吠える! 不死身のウル
- 13話 一本勝負! 大雪山おろし
- 14話 紅の空に命を賭ける!!
- 15話 悠子に捧げるバラード
- 16話 恐竜帝国の謎を追え
- 17話 狙われた設計図
- 18話 恐竜帝国のすごい奴
- 19話 リョウ 最後の出撃!
- 20話 大空襲! 突然の恐怖
- 21話 アメリカから来たロボット
- 22話 悲劇のゲッター-Q (クイーン)
- 23話 浅間山の大発明狂
- 24話 大要塞に向かって撃て
- 25話 合体! 風速100メートル
- 26話 帝王ゴール 大噴火作戦
- 27話 大魔人ユラーの怒り
- 28話 襲撃!! 地竜族三人衆
- 29話 洪水地獄の死闘
- 30話 不死鳥 (フェニックス) の甦る時
- 31話 危機! ハヤトよ立ち上げれ
- 32話 恐怖! 赤い霧の罠
- 33話 果てしなき大空に誓う
- 34話 女竜戦士ユソケの涙
- 35話 ムサン! 男はつらい
- 36話 要塞撃滅! トロイ作戦
- 37話 悪の指令! 博士を狙え
- 38話 魔の海からの脱出!!
- 39話 悲しみは流れ星の彼方に
- 40話 日本列島凍結作戦!
- 41話 姿なき恐竜空爆隊
- 42話 北極に進路をとれ!
- 43話 奪われたゲッターロボ
- 44話 ムサン! 怒りの海底
- 45話 脱出! 宇宙の墓場
- 46話 恐るべき氷竜族の侵略
- 47話 帝王ゴール 地上に現わる
- 48話 マグマの恐竜帝国へ突入!
- 49話 大爆発! くだばれ恐竜帝国
- 50話 帝王ゴール 決死の猛反撃
- 51話 恐竜帝国のほろびる日

脚本	演出	作画監督
上原正三	勝間田具治	小松原一男
上原正三	生頼昭憲	野田卓雄
上原正三	川田武範	森利夫
上原正三	落合正宗	伊賀章二
雪室俊一	山口康男	小松原一男
田村多津夫	生頼昭憲	野田卓雄
雪室俊一	山口秀憲	森利夫
田村多津夫	勝間田具治	小松原一男
雪室俊一	小湊洋市	中村一夫
松岡清治	森下孝三	白土武
田村多津夫	山口康男	白土武
上原正三	葛西治	野田卓雄
雪室俊一	勝間田具治	増谷三郎
田村多津夫	川田武範	菊池城二
雪室俊一	小湊洋市	中村一夫
上原正三	勝間田具治	小松原一男
田村多津夫	森下孝三	白土武
上原正三	山口康男	白土武
田村多津夫	生頼昭憲	野田卓雄
田村多津夫	田宮武	落合正宗
上原正三	葛西治	川島明
上原正三	小湊洋市	中村一夫
上原正三	白土武	白土武
上原正三	生頼昭憲	飯野皓
田村多津夫	山口秀憲	神宮さとし
上原正三	山口康男	白土武
上原正三	生頼昭憲	野田卓雄
上原正三	落合正宗	落合正宗
上原正三	森下孝三	中村一夫
上原正三	小湊洋市	神宮さとし
田村多津夫	川田武範	菊池城二
上原正三	生頼昭憲	野田卓雄
田村多津夫	山口康男	小松原一男
上原正三	落合正宗	落合正宗
田村多津夫	小湊洋市	中村一夫
田村多津夫	奥田誠治	神宮さとし
上原正三	葛西治	落合正宗
上原正三	生頼昭憲	野田卓雄
上原正三	山口康男	小松原一男
田村多津夫	落合正宗	落合正宗
田村多津夫	葛西治	中村一夫
田村多津夫	奥田誠治	神宮さとし
上原正三	小湊洋市	小松原一男
田村多津夫	生頼昭憲	野田卓雄
田村多津夫	落合正宗	落合正宗
上原正三	奥田誠治	神宮さとし
田村多津夫	山本寛巳	小松原一男
上原正三	生頼昭憲	野田卓雄
田村多津夫	落合正宗	落合正宗
上原正三	生頼昭憲	野田卓雄
上原正三	山口康男	小松原一男



これ、あなたが決めた  
ミニゴースト...  
何となく、この道は地獄の  
耳の裏に、この世の裏に  
この世の裏に、胸の奥に  
ホキモは、胸の奥に

はあ  
はあ

私が男性だったら種族が飛ぶぞ  
押し倒してやるからさあ、はい

お母様!?



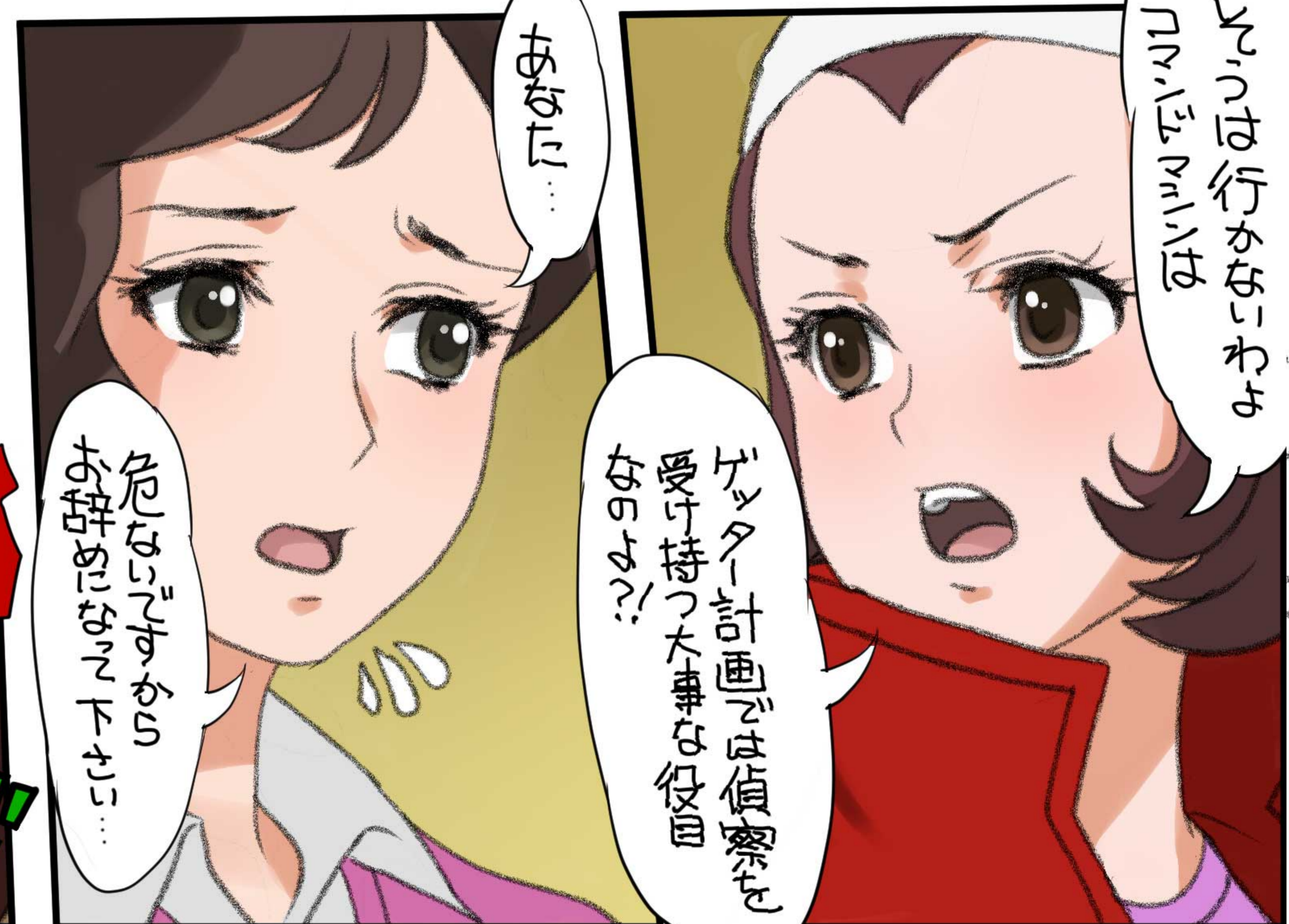
いね!! あのホッチは  
ゲッター計画に絶対  
必要です!!

ドドドド  
ドドドド  
ドドドド



これに懲り二度と  
ロマンティックになんぞ  
乗らなれど頂戴ね...

2021.06.03



あ...  
危ないから  
お辞儀をオオオ...

ゲッター計画では偵察を  
受け持つ大事な役目  
なのかな...  
どうは行かないわよ  
ロマンティックは

# ゲッターロボ1974年